

基礎ロシア語コース

文 法 編

教科書刊行会

ま え が き

「基礎ロシア語コース」は北海道大学言語文化部と札幌大学外国語学部の両ロシア語スタッフが協力して執筆・編纂したロシア語教科書である。二つの大学が共同で一つの語学教材を開発するということは、前例があるのかないのか、寡聞にして知らないが、いずれにしても、大変に珍しいことであるに違いない。私たちは討論を重ね、原稿は途中で何度も書き直され、結局、企画から完成まで約3年の年月を要した。

この教科書では従来の教科書には見られないいくつかの工夫を試みた。その第一は、全体を「文法編」「練習問題編」「会話編」の3つに分け、完全な「分冊」としたことである。授業の形態、目的、時間数に合わせて、この3つを自由に組み合わせることで、いかなる大学の教材としても使用できるようにというのが、その狙いであった。結果として、「文法編」は練習問題から解放されて、文法書としての性格をより鮮明に持つことができたし、逆に、練習問題は文法の添え物的位置を脱却して、独立の一編となることができた。

「会話編」の第1部は、「文法編」の進度におおよそ合致するように、しかもできる限り自然な表現で組み立てられているので、文法と会話を並行して教えることが可能である。

3つの分冊は「文法編」を中心にして、密接に結び付いているが、分冊であるために「文法編」の補遺や「会話編」の第2部のような、やや独立した、中級レベルの部分を含ませることができた。

その他、より小さな特徴は各分冊の前書きで述べる。

3分冊全体の量は、従来の初級教科書よりもずっと多いので、これを全て教えようとすると、週2回の授業では1年半かかるだろう。しかし、いずれか2冊ならば、1年間でできるだろう。何を主とし、何を従とするかは、教授者の自由である。

この「基礎ロシア語コース」は現在の私たちのベストを尽くしたものであるが、生まれたばかりのものであるから、やがて遺漏は見つかるだろう。折りを見ては修正していきたいと思っている。

両大学の教科書編纂グループのメンバーは、藤家壮一、小平武、山田吉二郎、杉浦秀一、Y. ジンベルグ（以上北海道大学）、相馬守胤、匹田軍次、金子利喜男、鈴木淳一、山田隆、E. ヴラーソフ（以上札幌大学）である。

1992年3月

編 者

初版から7年の歳月を経て、ここに改訂版を発行することができた。「基礎ロシア語コース」の初版を執筆・編集した関係諸氏に心から感謝する。彼らの功績なくしては、教育研究の原資も、その後の発展もあり得なかっただろう。

初版で宣言した原則は、この度の改訂でも変わることなく引き継がれている。一つには「3分冊」を設定することによる学習対象の明瞭化、二つめに、学習目的に応じた教材選択の柔軟性を保障することである。

この度の改訂では記述や例文の見直しを重ねた他に、いくつかの修正と改良もおこなっている。「文法編」をいわゆる規則集に位置づけて、例文集が補完的な役割を果たすように分業化した。文法に重きをおく授業では例文集をぜひ併用し、これを活用するよう薦めたい。

「練習問題編」では文法編の説明に基づいて、確認や応用のための問題を多く取り込んでいる。もし授業時間内にやりこなす余裕がないときには、たとえば10題を2つに分けて、片方を教室で、もう一方を家庭学習に振り分けることも可能である。

「会話編」ではシナリオの書き替えをおこない、より汎用性に富む表現を盛り込むように心がけた。また現場教師の提言を取り入れ、会話編に発音教程と練習問題を発展的に新設してみた。練習問題ではまず文型や語尾変化といった語学学習の側面が、そしてテキストのあとでは内容を問う問題が中心に配列されている。ここにもぜひ注目していただきたい。

初版の編集原則は守りながらも、必要な、そして学習効果のあがる改良を加えることで編集作業を進めてきたつもりである。初版の時と同じく、改訂にあたっては北海道大学、札幌大学、両大学の教科書改訂グループが最大限の努力と注意を払ったつもりではあるが、世の常で、新たな遺漏や不備が見つかるかもしれない。その時は、また機会をとらえて改訂作業に取りかかりたいと思っている。

1999年3月

編者

第1課	文字と発音	
§001	アルファベット	6
§002	母音	10
§003	子音	10
§004	軟音記号と硬音記号	11
§005	単語とアクセント	12
第2課	簡単な文	
§006	簡単な平叙文	15
§007	疑問文と否定文	15
§008	疑問詞を用いた疑問文	15
§009	人称代名詞	15
§010	接続詞 и と а	15
§011	数詞(1) 1～10	15
第3課	名詞の性・数・格	
§012	名詞の性	16
§013	名詞の数	16
§014	名詞と3人称代名詞の関係	17
§015	名詞の格	17
	《コラム》食堂のいろいろ	18
第4課	所有代名詞・指示代名詞・形容詞	
§016	所有代名詞 мой, наш (主格)	19
§017	疑問代名詞 чей? (主格)	19
§018	指示代名詞 этот (主格)	20
§019	形容詞(主格)	20
§020	形容詞の用法	21
§021	疑問詞 какой?	21
第5課	動詞の第1変化と名詞の前置格(単数)	
§022	動詞の不定形	22
§023	動詞の現在形(第1変化)	22
§024	名詞の前置格(単数)	23
§025	前置詞 о, в, на と前置格	23
§026	人称代名詞および кто, что の前置格	24
§027	特殊な変化をする動詞(1)	24
	《コラム》月の名称	25
第6課	動詞の第2変化と名詞の対格(単数)	
§028	動詞の現在形(第2変化)	26

基礎ロシア語コース 続基礎編 目次

§029	名詞の対格（単数）	27
§030	人称代名詞および кто, что の対格	28
§031	数詞（2） 11～19	28
第7課	定動詞と不定動詞	
§032	特殊な変化をする動詞（2）идти, ехать	29
§033	前置詞 в, на と対格・前置格	29
§034	定動詞と不定動詞	30
§035	数詞（3） 20～30	30
第8課	動詞の過去と未来	
§036	動詞の過去	31
§037	動詞 быть の用法	32
§038	動詞の未来形	32
§039	特殊な変化をする動詞（3）мочь, хотеть	33
§040	簡単な複文	34
§041	数詞（4） 20, 30, 40...100	34
第9課	名詞の生格	
§042	名詞の生格（単数）	35
§043	人称代名詞および кто, что の生格	35
§044	所有の表現	36
§045	存在や所有の否定表現	36
§046	男性名詞活動体の対格（単数）	37
§047	生格支配の前置詞	37
	《コラム》曜日の名称	38
第10課	名詞の与格（単数）	
§048	名詞の与格（単数）	39
§049	人称代名詞および кто, что の与格	40
§050	前置詞 к, по と与格	40
§051	無人称文	41
§052	特殊な変化をする動詞（4）рисовать	41
§053	数詞（5） 100, 200, 300,...1000	42
第11課	名詞の造格（単数）	
§054	名詞の造格（単数）	43
§055	人称代名詞および кто, что の造格	44
§056	造格支配の前置詞	44
§057	ся 動詞	45
§058	再帰人称代名詞 себя	46

第12課	完了体と完了体・形容詞短語尾	
§059	完了体と完了体	47
§060	体と接頭辞	49
§061	不定人称文	49
§062	形容詞短語尾	50
§063	形容詞短語尾の用法	51
第13課	動詞の命令形・形容詞の対格（単数）	
§064	動詞の命令形	52
§065	形容詞の対格（単数）	54
§066	所有代名詞の対格（単数）	54
§067	指示代名詞の対格（単数）	55
第14課	形容詞の比較級（1）・前置格（単数）	
§068	形容詞の比較級（1）	56
§069	形容詞の前置格（単数）	56
§070	所有代名詞の前置格（単数）	57
§071	指示代名詞の前置格（単数）	57
第15課	形容詞の比較級（2）・生格（単数）	
§072	形容詞の比較級（2）	59
§073	形容詞の生格（単数）	60
§074	所有代名詞の生格（単数）	61
§075	指示代名詞の生格（単数）	61
第16課	形容詞の最上級（1）・与格（単数）	
§076	形容詞の最上級（1）	63
§077	形容詞の与格（単数）	63
§078	所有代名詞の与格（単数）	64
§079	指示代名詞の与格（単数）	65
第17課	形容詞の最上級（2）・造格（単数）	
§080	形容詞の最上級（2）	66
§081	形容詞の造格（単数）	66
§082	所有代名詞の造格（単数）	67
§083	再帰所有代名詞 свой	68
§084	指示代名詞の造格（単数）	68
§085	定代名詞 весь, сам	68
第18課	名詞の複数形（1）・数詞の用法	
§086	名詞の主格・生格・対格（複数）	70
§087	複数生格の例外	71
§088	数詞と名詞の結合	72

第 19 課	形容詞の複数形（１）・数量生格	
§089	形容詞の主格・生格・対格（複数）	74
§090	所有代名詞の主格・生格・対格（複数）	74
§091	指示代名詞の主格・生格・対格（複数）	75
§092	数量生格	75
第 20 課	数詞を使った表現（１）・名詞の複数形（２）	
§093	数詞を使った表現（１）	76
§094	数詞の変化	77
§095	名詞の与格・造格・前置格（複数）	79
	《コラム》мать, дочь, брат などの格変化	80
第 21 課	形容詞の複数形（２）・順序数詞	
§096	形容詞の与格・造格・前置格（複数）	81
§097	所有代名詞の与格・造格・前置格（複数）	81
§098	指示代名詞の与格・造格・前置格（複数）	82
§099	順序数詞	83
§100	数詞を使った表現（２）	84
第 22 課	不定副詞・不定代名詞・否定副詞・否定代名詞	
§101	不定副詞	86
§102	不定代名詞	87
§103	否定副詞	88
§104	否定代名詞	90
第 23 課	関係代名詞・関係副詞・仮定法・普遍人称文	
§105	関係代名詞 который	91
§106	関係代名詞 кто と что	92
§107	関係代名詞 какой	92
§108	関係代名詞 чей	93
§109	関係副詞	93
§110	仮定法	94
§111	普遍人称文	95
第 24 課	副動詞・形動詞・受け身の構文	
§112	副動詞	96
§113	形動詞	97
§114	受け身の構文	100
INDEX		102

第 1 課 (Урок первый)

文字と発音

§001 アルファベット

	活字体	筆記体	名 称	発 音
1	А а		ア	[a]
2	Б б		ベ	[b]
3	В в		ヴェ	[v]
4	Г г		ゲ	[g]
5	Д д		デ	[d]
6	Е е		イエ	[je]
7	Ё ё		ヨ	[jo]
8	Ж ж		ジェ	[]
9	З з		ゼ	[z]
10	И и		イ	[i]
11	Й й		イ・クラトカエ	[j]
12	К к		カ	[k]
13	Л л		エル	[l]
14	М м		エム	[m]

	活字体	筆記体	名 称	発 音
15	Н н		エン	[n]
16	О о		オ	[o]
17	П п		ペ	[p]
18	Р р		エル	[r]
19	С с		エス	[s]
20	Т т		テ	[t]
21	У у		ウ	[u]
22	Ф ф		エフ	[f]
23	Х х		ハ	[x]
24	Ц ц		ツエ	[ts]
25	Ч ч		チェ	[tʃ]
26	Ш ш		シャ	[ʃ]
27	Щ щ		シシャ	[ʃʲ]
28	Ъ ъ		硬音記号	-
29	Ы ы		ウイ	[ɨ]
30	Ь ь		軟音記号	[ʲ]
31	Э э		エ	[e]
32	Ю ю		ユ	[ju]
33	Я я		ヤ	[ja]

注) ロシア語アルファベットは、10 個の母音字、21 個の子音字、そして 2 個の記号、合わせて 33 個の文字からなる。

§002 母音

ロシア語には母音を表わす文字が 10 個ある。

母音は、硬母音と軟母音に分かれる。母音の前に短いイを添えるものを軟母音という。硬母音はア行に、軟母音はヤ行に例えられて説明されることがある。

[表 1] 母音の硬軟対照表

硬母音	а	ы	у	э	о
軟母音	я	и	ю	е	ё

注 1) ы: 舌をうしろに引き、舌先をやや上げて「イ」と発音する。

пить : пыль 飲む : ホコリ рис : рыба 米 : サカナ

注 2) е: 英語のそれとは異なり、[je] と発音する。

ёта : есть この : 食べる ёхо : ёхать エコー : 乗る

注 3) у: 日本語のそれとは異なり、唇を丸めて発音する。

улица通り утро 朝 Украина ウクライナ

§003 子音

Б, б	英語の[b]の音。	ба́за	ベース
В, в	英語の[v]の音。	вы	あなたは
Г, г	英語の[g]の音。	газе́та	新聞
Д, д	英語の[d]の音。	да	はい
Ж, ж	舌を後ろに引き、少し立ててジと発音する。	же́на	妻
З, з	英語の[z]の音。	за́л	ホール
Й, й	短いイ。	мо́й	私の
К, к	英語の[k]の音。	ка́сса	レジ
Л, л	舌の先を上歯の裏につけてルという。	лю́ди	人々
М, м	英語の[m]の音。	му́ж	夫

Н, н	英語の[n]の音。	но́мер	番号
П, п	英語の[p]の音。	парк	公園
Р, р	舌の先を震わせるラ行の音。	ру́сский	ロシア人
С, с	英語の[s]の音。	сын	息子
Т, т	英語の[t]の音。	там	あそこに
Ф, ф	英語の[f]の音。	фа́мília	名字
Х, х	喉の奥で強くハ行をいう。	хорошо́	すばらしい
Ц, ц	ツに使う音。	центр	中心
Ч, ч	チに使う音。	чай	紅茶
Ш, ш	Жの方法でシャという。	ша́пка	帽子
Щ, щ	[ш]の軟らかい発音である。	щи	野菜スープ

§004 軟音記号と硬音記号

Ьは「軟音記号」と呼ばれる。常に子音とともに用いられ、子音+Ьの結合をとる。この記号がつくと、子音は「軟らかく」発音される。つまり、子音に短い「イ」の響きを与えて発音される。

ма́ть 母親 ко́нь 馬 э́десь ここに

Ъは「硬音記号」と呼ばれ、常に子音と母音の間で用いられる。この記号はその子音と母音が分けて発音されることを示す。これを「分離符としての働き」と呼ぶ。

вбе́хать 乗り入れる съёмка 撮影 объе́кт 対象物

軟音記号にも「分離符としての働き」がある。

се́мья 家族 ста́тья 論文 Та́тьяна タチヤーナ

軟音記号のついた子音を軟子音、軟音記号のつかない子音を硬子音と呼ぶ。

[表2の1] 子音字の硬軟対照表

硬子音	б	п	в	ф	д	т	з	с	л	м	н	р
軟子音	бь	пь	вь	фь	дь	ть	зь	сь	ль	мь	нь	рь

ж, ш, ц は常に硬子音である。これらの後に軟音記号や軟母音がついても発音は「軟らかく」ならない。

е́шь [еш] 食べなさい же́нщина [жэнщина] 女性

ч, щ は常に軟子音である。軟音記号や軟母音の有無にかかわらず、発音は常に「軟らかい」。

до́чь [доч'] 娘 ча́й [ч'ай] 紅茶 ве́щь [вещ'] 品もの

[表2の2]

硬子音	ж	ш	ц
軟子音			ч щ

§005 単語とアクセント

(1) アクセント

単語は原則としてアクセントを持つ。

アクセントは必ず母音の上にある。

アクセントのある母音は強く、はっきりと発音される。

アクセントは記号(´)で表示する。母音が1つの単語は原則として、表示を省略する。

ë は常にアクセントを持つ。

(2) つづりと発音

綴ってある通りに読むといわれるロシア語ではあるが、次のような場合はつづりの通りに読まない。

アクセントのない o は a として発音される。

окно́ [акно] 窓 молоко́ [малако] ミルク

アクセントの前の e, я は「e に近い и」として発音される。これを [и^е] と表記する。

река́ [ри^ека] 川 язы́к [и^езык] 舌、言語

語末の有声子音は、対応の無声子音として発音される。

обе́д [абет] 食事 друг [друк] 友人

[表3] 子音の有声・無声対照表

有声子音	б	в	г	д	з	ж	й	м	н	р	л
無声子音	п	ф	к	т	с	ш		х	ц	ч	щ

これらの有声子音は、無声子音の前でも、同じように対応の無声子音として発音される。これらの現象を「有声子音の無声化」と呼ぶ。

вчера́ [фчера] 昨日 завтра́ [зафтра] 明日

逆に、無声子音は в を除く有声子音の前で、対応の有声子音として発音される。これを「無声子音の有声化」と呼ぶ。

сда́ча [здача] おつり вокза́л [вагзал] ターミナル駅

綴りが次のような場合には読み方が異なる。

綴り	発音	例 語	発 音
-стн-	[-сн-]	изве́стно	[извесна] 有名だ
-здн-	[-зн-]	поз́дно	[позна] 遅い
-вст-	[-ст-]	здрáвствуй	[здраствуй] こんにちは
-чн-	[-шн-]	конéчно	[канешна] もちろん
-сч-	[-щ-]	сча́стие	[щ'астия] 幸せ
-тс-	[-ц-]	де́тский	[децкий] 子どもの

第2課 (Уро́к второ́й)

簡 単 な 文

§006 簡単な平叙文

Э́то жу́рна́л.

これは雑誌です。

Э́то га́зе́та.

これは本です。

§007 疑問文と否定文

– Э́то кн́ига?

「これは本ですか。」

– Да, э́то кн́ига.

「はい、それは本です。」

– Э́то Ни́на?

「これはニーナですか。」

– Нет, э́то не Ни́на.

「いいえ、それはニーナではありません。」

疑問詞のない疑問文のイントネーションは、疑問の中心となっているところのアクセント部分を上げる。

否定文は、否定したい語の前に助詞 не を置く。

文頭のダッシュは、会話文であることを示している。

§008 疑問詞を用いた疑問文

Что э́то?

これは何ですか。

Кто э́то?

これは誰ですか。

Где га́зе́та?

新聞はどこですか。

§009 人称代名詞

人称代名詞は、人称と数の2要素から成る。

[表 4]	単 数	複 数
1人称	я 私	мы 私たち
2人称	ты 君	вы 君たち
3人称	он 彼	они 彼ら
	она́ 彼女 оно́ それ	

注1) ты は親子や夫婦などの家族同士で、親友や恋人など親しい間柄で、またおとなが子どもに対して用いる。キリスト教では神への呼びかけに使う。

注2) вы は「君たち」の他に、敬称の「あなた」や「あなた方」という意味をもつ。

§010 接続詞 и と а

並列の接続詞 и

Это отец и мать. これは父と母です。

対比の接続詞 а

Это вода, а это сок. これは水で、これはジュースです。

§011 数詞 (1)

- | | |
|------------------------|-------------|
| 1. один (одна́, одно́) | 6. шесть |
| 2. два (две) | 7. семь |
| 3. три | 8. восемь |
| 4. четы́ре | 9. де́вять |
| 5. пять | 10. де́сять |

注) ゼロは、ноль という。

第3課 (Уро́к тре́тий)

名詞の性・数・格

§012 名詞の性

ロシア語の名詞には文法のうえで男性、女性、中性の区別がある。

名詞の性は、意味上男女、雌雄の区別があるものはそれに従う。それ以外のときは、単語末の文字で識別する。

[表 5]	語 末 の 文 字		
男性名詞	硬子音字	-й	-ь
女性名詞	-а	-я	-ь
中性名詞	-о	-е	-мя

注) 硬子音字とは、ここでは軟音記号”-ь”のつかない子音である。

男性名詞	стол 机	музе́й 博物館	слова́рь 辞書
女性名詞	кни́га 本	пе́сня 歌	пло́щадь 広場
中性名詞	ме́сто 座席	зда́ние 建物	вре́мя 時間

-а, -я で終る名詞でも、男性を意味するものは男性名詞である。

па́па パパ дя́дя おじ Пе́тя ペーチャ

§013 名詞の数

ロシア語の名詞には、単数と複数の区別がある。

[表 6]	単数形 → 複数形	
男性名詞	-硬子音字 → +ы	стол столы́
	-й → -и	музе́й музеи
	-ь → -и	слова́рь словарѝ

女性名詞	-а → -ы	газѐта	газѐты
	-я → -и	пѣсня	пѣсни
	-ь → -и	тетра́дь	тетра́ди
中性名詞	-о → -а	письмо́	письма́
	-е → -я	мо́ре	моря́
	-мя → -мена	и́мя	имена́

ロシア語で単語をつづる時に、伝統的なつづり方が適用される場合がある。これを「正書法の規則」と呼んでいる。

[表 7] 正書法の規則

Г, К, Х, Ж, Ч, Ш, Щ の後には ы, ю, я を書かずに、и, у, а を書く。

ма́льчик → ма́льчики 男の子 кни́га → кни́ги 書籍

§ 014 名詞と3人称代名詞の関係

онは人間の男性ばかりでなく、全ての男性名詞に使うことができる。

同様に、она́は全ての女性名詞の代りに、また оно́は全ての中性名詞の代りに、そして они́は全ての複数名詞の代りに使う。

- Где газѐта? 「新聞はどこですか。」
- Вот она́. 「ほら、これだよ。」

§ 015 名詞の格

次の2つの文を比べてみよう。

Кни́га здесь. Я чита́ю кни́гу.
本はここだ。 私は本を読む。

文の主語や補語という役割について、前ページの例に示したようにロシア語ではкни́га(本)という単語自体の語尾変化によって表わされる。この語尾変化のことを「格変化」と呼んでいる。

ロシア語には6つの格があり、日本語の「てにをは」で代表させると次のようになる。ロシア語の慣習では、以下の順番で格変化が表記される。単数の後に複数形が並ぶ。

1. 主格(しゅかく) 「は」「が」(辞書の見出し形を兼ねる)
2. 生格(せいかく) 「の」
3. 与格(よかく) 「に」
4. 対格(たいかく) 「を」
5. 造格(ぞうかく) 「によって」
6. 前置格(ぜんちかく) 固有の意味はなく、常に前置詞とともに用いられる。

コラム - 《食堂のいろいろ》

一般にロシアの食堂は столо́вая, кафе́, бистро́, рестора́н などと呼ばれる。学校や職場の食堂および街の大衆食堂に相当するのが столо́вая。日本のファミリーレストランがそれよりちょっと上等な食堂は кафе́とかбистро́とよばれる。これよりも値段が高く、夜になるとバンド演奏が入るのが рестора́нだ。ただし、最近はやりの“Ру́сское бистро́”は、ファーストフードであって本来の意味のбистро́ではない。

《スープの話》

ロシアの正餐は昼食である。したがって朝食と夕食には борщやуха́ といったスープは出さないのが普通だ。ただしсоля́нка は昼食以外にも出る。

第4課 (Урок четвёртый)

所有代名詞・指示代名詞 と形容詞

§016 所有代名詞（主格）мой, наш など

所有代名詞のうち、1人称と2人称はそれが関係する名詞の性・数・格に応じて変化する。

[表8]	私の	私たちの		
男性形	мой	наш	мой журнал	私の雑誌
女性形	моя	наша	моя книга	私の本
中性形	моё	наше	моё место	私の座席
複数形	мои	наши	мои часы	私の時計

注) Твой(君の)はмой と、ваш(あなたの)は наш と同変化。

3人称は性・数・格に係わりなく、語形の変化がない。

[表9]	彼の	彼女の	その	彼らの
	его́	её́	его́	их
	его́ отец	彼の父	его́ родители	彼の両親
	его́ мать	彼の母		

§017 疑問代名詞（主格）чей?

疑問代名詞 чей?も、関係する名詞の性・数・格に応じて変化する。

[表10]	誰の		
男性形	чей?	чей словарь?	誰の辞書
女性形	чья?	чья сумка?	誰のバッグ
中性形	чьё?	чьё мнение?	誰の意見
複数形	чьи?	чьи часы?	誰の時計

— Чей это карандаш? Твой? これは誰の鉛筆かな。君のか。

§018 指示代名詞（主格）этот

指示代名詞 этот (この)は、それが関係する名詞の性・数・格に応じて変化する。

[表11]	この		
男性形	этот	этот киоск	このキオスク
女性形	эта	эта почта	この郵便局
中性形	это	это место	この場所
複数形	эти	эти магазины	これらの商店

注) тот(あの)は順に тот, та, то, те と語尾変化する。

§019 形容詞（主格）

形容詞は、それが関係する名詞や代名詞の性・数・格に応じて変化する。

「硬変化(-ый型と-ой型)」と「軟変化」に大別される。

[表12]	硬変化		軟変化
	新しい	若い	青い
男性形	но́вый	молодо́й	си́ний
女性形	но́вая	молода́я	си́няя
中性形	но́вое	молодо́е	си́нее
複数形	но́вые	молоды́е	си́ние

注1) 複数形には、性の区別がない。

注2) アクセントが語尾にあるものは、男性形が -ой となる。

注3) 語幹が г, к, х で終る形容詞は硬変化であり、ж, ч, ш, щ で終わるのは軟変化である。いずれも正書法の規則(表7)により綴りが変わる。たとえば ру́сский, хоро́ший など。

но́вый мир 新しい世界 но́вое пальто́ 新しいコート
но́вая маши́на 新しい車 но́вые часы 新しい時計

§020 形容詞の用法

形容詞には次の2つの用法がある。

名詞を修飾する。

Саша хоро́ший студе́нт. サーシャはりっぱな学生だ。
 Это не но́вые часы́. これは新しい時計ではない。

文の述語となる。

Она́ совсе́м молодáя. 彼女はまったく若い。
 Столо́вая дово́льно большо́я. 食堂はかなり大きい。

§021 疑問詞 ка́кой?

ка́кой? は名詞を特徴づける形容詞を問いたす時、または感嘆文を表現する時に使う。

関係する名詞の性・数・格に応じて変化し、その語形は形容詞に準ずる。

主格形は、ка́кой? ка́кая? ка́кое? ка́кие?である。

Како́й он челове́к? 彼はどんな人なのですか。
 Кака́я э́то кни́га? これはどんな本ですか。
 Како́е э́то и́мя? それは、どんな名前ですか。
 Ка́кие э́то отве́ты? それはどんな答えですか。

Како́й вку́сный чай! なんておいしい紅茶だろうか。
 Кака́я хоро́шая пого́да! 何ていい天気だろうか。
 Како́е краси́вое зда́ние! なんときれいな建物だろうか。

第5課 (Уро́к пя́тый)

動詞の第1変化と名詞の前置格(単数)

§022 動詞の不定形

不定形は語尾の形によって、次の3種類がある。

1. -ть で終るもの чита́ть (読む) знать (知っている)
2. -ти́ で終るもの иди́ти (行く) нести́ (持ち運ぶ)
3. -чь で終るもの мочь (できる) печь (焼く)

不定形から語尾2文字を取り去ったものを、不定形語幹という。

§023 動詞の現在形(第1変化)

動詞の現在形は、主語の人称と数に応じて変化する。

語尾変化のパターンによって、「第1変化」と「第2変化」 (§030) に分けられる。

[表16] 第1変化

	чита́ть	зна́ть		
я	чита́ю	зна́ю	де́лать	する
ты	чита́ешь	зна́ешь	ду́мать	考える
он	чита́ет	зна́ет	понима́ть	理解する
мы	чита́ем	зна́ем	рабо́тать	働く
вы	чита́ете	зна́ете	слу́шать	聞く
они	чита́ют	зна́ют	гуля́ть	散歩する

注1) 斜字体の部分が、人称語尾である。

注2) 第1変化の現在語幹は、ほとんどの動詞が不定形語幹に等しい。またこのタイプの動詞は、語尾が -ать や -ять に終わるものが多い。

注3) 3人称単数は、現在形の場合 он, она́, оно́ が同じ語尾になる。

Я чита́ю, а па́па отдыха́ет. ぼくは読書をし、パパは休息をとっている。
 Мы обе́даем, пото́м гуля́ем. 私たちは食事をとり、それから散歩する。

§ 024 名詞の前置格（単数）

前置格は、他の格と異なり、単独で用いられることがなく、常に前置詞とともに用いられる。また固有の意味はなく、前置詞の意味にしたがう。

変化は次の通りである。

[表 17 の 1]		硬子音字	-й	-ь
男	主 格	сто́л	музе́й	слова́рь
性	前置格	столе́	музее́	слова́ре

[表 17 の 2]		-а	-я	-ь
女	主 格	ко́мната	семья́	пло́щадь
性	前置格	ко́мнате	семе́е	пло́щади

[表 17 の 3]		-о	-е	-мя
中	主 格	ме́сто	мо́ре	и́мя
性	前置格	ме́сте	мо́ре	и́мени

次のタイプの名詞の前置格は -е ではなく、-и となる。

-ий で終わる男性名詞。 санато́рий – в санато́рии (サナトリウム)

-ия で終わる女性名詞。 Росси́я – в Росси́и (ロシア)

-ие で終わる中性名詞。 собра́ние – на собра́нии (集会)

前置詞が в, на の時、語尾がアクセントをとまう -ý, -ю に終る男性名詞がある。

в саду́ 庭で в лесу́ 森の中で в году́ 1年に
в аэропорту́空港で на берегу́ 岸辺で на краю́ 辺境で

§ 025 前置詞 о, в, на と前置格

前置格を補語にとる前置詞がある。標準的な語例を挙げてみよう。

о + 前置格=「～について」

Ты ма́ло зна́ешь о рабо́те. お前は仕事のことはほとんど知らないな。

в + 前置格=「～の中で」

Моё письмо́ лежи́т в столе́. ぼくの手紙が机の中にある。

на + 前置格=「～の上に」

Мой журна́л лежи́т на столе́. 私の雑誌は机の上にある。

国名や都市名を含め場所の表現には、前置詞 в を用いる場合が多い。

институ́т	в институ́те	大学で
шко́ла	в шко́ле	学校で
Москва́	в Москве́	モスクワで

しかし、同じ用法でもっばら前置詞 на を用いる名詞がある。

заво́д	на заво́де	工場で
вокза́л	на вокза́ле	駅で
конце́рт	на конце́рте	コンサートで
рабо́та	на рабо́те	仕事場で

§ 026 人称代名詞および кто, что の前置格

[表 18 の 1] 人称代名詞の前置格

主 格	я	ты	он	она́	оно́	мы	вы	они́
前置格	мне	тебе́	не́м	ней	не́м	нас	вас	них

[表 18 の 2] кто, что の前置格

主 格	кто	что
前置格	ком	че́м

– О ком вы ду́маете? あなたは誰のことを考えているのですか。
– Я ду́маю о ней. わたしは彼女のことを考えています。

§ 027 特殊な変化をする動詞（１）

жить（住む）、писа́ть（書く）の現在形は次の通り。過去形は、不定形をもとに規則通りに形成する。

[表 19]	жить	писа́ть
я	живу́	пишу́
ты	живёшь	пи́шешь
он	живёт	пи́шет
мы	живём	пи́шем
вы	живёте	пи́шете
они	живу́т	пи́шут

注) писа́ть のように第 1 変化の動詞が、語幹で子音交替のある場合には、語末 3 文字を削除して現在語幹を形成する。

- Где вы живёте? あなたはどこに住んでいるのですか。
 – Я живу́ в Москвѐ. 私はモスクワに住んでいます。

《月の名称》

1 月	январь	в январѐ
2 月	февраль	в февралѐ
3 月	март	в ма́рте
4 月	апрѐль	в апрѐле
5 月	май	в маѐ
6 月	ию́нь	в ию́не
7 月	ию́ль	в ию́ле
8 月	август	в августѐ
9 月	сентябрь	в сентябрѐ
10 月	октябрь	в октябрѐ
11 月	ноябрь	в ноябрѐ
12 月	дека́брь	в декабрѐ

注 1) 月の名称は全て男性名詞である。

注 2) 「何月に」の表現には「в + 前置格」で表わす。

第 6 課 (Уро́к шестой)

動詞の第 2 変化と名詞の対格

§ 028 動詞の現在形 (第 2 変化)

говори́ть (話す) や смотре́ть (見る) などの動詞は次表のような変化をする。この型の変化を「第 2 変化」と呼ぶ。

[表 20] 第 2 変化

	говори́ть	смотре́ть		
я	говору́	смотрю́	звони́ть	電話する
ты	говори́шь	смотри́шь	строи́ть	建設する
он	говори́т	смотре́т	ве́рить	信用する
мы	говори́м	смотрим	кури́ть	喫煙する
вы	говори́те	смотрите	ви́деть	見える
они	говоря́т	смотря́т	летѐть	飛ぶ

注 1) 第 2 変化の語幹は、不定形から語末の 3 文字を取り去ることになる。

第 2 変化の動詞は、語尾が -ить や -еть に終わるものが多い。

注 2) 語尾にアクセントがある動詞のうち、アクセントの移動するものがある。その場合は、ты の変化形から前の音節に移動する傾向にある。

Мы говори́м по-ру́сски. 私たちはロシア語を話します。
 Де́ти смотре́ют телеви́зор. 子ども達はテレビを見ている。

現在語幹が г, к, х, ж, ч, ш, щ で終るものは、正書法の規則 (表 7) により、-ю, -ят が -у, -ат となる。

лежа́ть: лежу́, лежи́шь,... лежа́т 横たわっている
 слы́шать: слы́шу, слы́шишь,... слы́шат 聞こえる

1 人称単数で、変化が不規則形になるものがある。子音が他の子音に交替す

る特殊変化を歯音変化と、また語幹子音に -л- を追加するものを唇音変化という。唇音変化は、語幹末の子音が б, п, в, ф, м のときに起こる。

видеть: ви́жу, ви́дишь,... ви́дят	見える
сидеть: си́жу, си́дишь,... си́дят	座っている
просить: про́шу, про́сишь,... про́сят	頼む
спать: сплю́, спи́шь,... спя́т	眠っている
любить: люблю́, люби́шь,... любя́т	好む
готовить: гото́влю, гото́вишь,... гото́вят	準備する

§ 029 名詞の対格（単数）

対格は、他動詞の直接補語「～を」の意味をもつ格である。
変化は次表の通りである。

[表 21 の 1]		硬子音字	-й	-ь
男	主 格	журна́л	музе́й	слова́рь
性	対 格	журна́л	музе́й	слова́рь

[表 21 の 2]		-а	-я	-ь
女	主 格	ко́мната	семья́	пло́щадь
性	対 格	ко́мнату	семью́	пло́щадь

注) 対格でアクセントが前方に移動する女性名詞がある。

рука́	ру́ку	手	нога́	но́гу	足
голова́	го́лову	頭	гора́	го́ру	山

[表 21 の 3]		-о	-е	-мя
中	主 格	ме́сто	мо́ре	и́мя
性	対 格	ме́сто	мо́ре	и́мя

Я чита́ю докла́д. 私は、報告を読んでいる。
До́ктор пи́шет статью́. ドクターは、論文を書いている。

対格は、前置詞の補語になる。

Лариса си́дит до́ма в суббо́ту и в воскресе́нье.

ラリーサは、土曜と日曜日に家にいる。

§ 030 人称代名詞および кто, что の対格

[表 22 の 1] 人称代名詞の対格

主 格	я	ты	он	она́	оно́	мы	вы	они́
対 格	меня́	тебя́	его́	её	его́	нас	вас	их

注) 3 人称の代名詞が前置詞結合を作るときは、語頭に н- の綴りをつけ加える。たとえば его́ > в него́, её > в неё, их > в них となる。

[表 22 の 2] кто, что の対格

主 格	кто	что
対 格	кого́	что

Вы зна́ете его́?

あなたは彼を知っていますか。

Кого́ я ви́жу? Ли́за, это ты?!

誰かと思ったら、リーザじゃないか。

§ 031 数詞（ 2 ）

- | | |
|-------------------|-------------------|
| 11. одинна́дцать | 16. шестна́дцать |
| 12. двена́дцать | 17. семна́дцать |
| 13. трина́дцать | 18. восемна́дцать |
| 14. четы́рнадцать | 19. девятна́дцать |
| 15. пятна́дцать | 20. двáдцать |

第7課 (Урок седьмой)

定動詞と不定動詞

§ 032 特殊な変化をする動詞 (2) идти, ехать

動詞 идти は「(歩いて)移動する」、ехать は「(乗り物で)移動する」の意味をもつ。

変化は次表の通りである。

[表 23]	идти	ехать
я	иду́	еду́
ты	идёшь	едешь
он	идёт	едет
мы	идём	едем
вы	идёте	едете
они	иду́т	едут

Я иду́ туда́.

私はそちらに行く。

Он едет сюда́.

彼はこちらに向かっている。

§ 033 前置詞 в, на と対格・前置格

「 в, на + 対格」は、運動の方向や目的地を表わす。従って идти, ехать のように運動を表わす動詞とセットでこの構文が使われる。

Куда́ вы идёте? あなたはどこへ行くところですか。

Я иду́ в магази́н. 私は店に行くところです。

Мы едем в Москвú. 私たちはモスクワに行きます。

「 на + 乗物を意味する名詞の前置格」は、交通手段を表わす。

На чём вы едете туда́? あなたはそこへ何に乗って行くのですか。

Мы едем на маши́не. 私たちはクルマでいきます。

§ 034 定動詞と不定動詞

運動を表わす動詞のいくつかは、定動詞と不定動詞のペアをなす。

定動詞は、方向が定まった、1 回分の運動を表わす。

不定動詞は「そうではない」運動、つまり「一定方向であるが、反復の運動」や「1 回限りだが、方向が定まらない」、または運動の能力を表わす時に用いる。

定・不定動詞の用法には、頻度や方向を表わす副詞との組み合わせに一定の傾向がある。

定・不定動詞のペアは 1 4 個ほどがあるが、代表的な動詞には以下がある。

[表 24]

意味	定動詞	不定動詞	意味	定動詞	不定動詞
歩く	идти́	ходи́ть	乗る	ехать́	эзди́ть
導く	вести́	води́ть	飛ぶ	летéть	летáть
持ち運ぶ	нести́	носи́ть	走る	бежа́ть	бега́ть
運搬する	везти́	вози́ть	泳ぐ	плы́ть	пла́вать

Сейча́с Ле́на идёт в шко́лу.

今レーナは学校に向かっている。

Ле́на ходи́т в шко́лу пешко́м.

レーナは学校に歩いて通っている。

Весёлые де́ти бе́гают в па́рке.

快活な子ども達が公園を走り回る。

Ребе́нок уже́ ходи́т.

赤ちゃんはもう歩くことができる。

§ 035. 数詞 (3)

20. два́дцать

26. два́дцать шесть

21. два́дцать оди́н

27. два́дцать семь

22. два́дцать два

28. два́дцать во́семь

23. два́дцать три

29. два́дцать де́вять

24. два́дцать четы́ре

30. три́дцать

25. два́дцать пять

31. три́дцать оди́н ...

第8課 (Урок восьмой)

動詞の過去と未来

§ 036 動詞の過去

動詞の過去形は、主語の性、数に応じて変化する。人称による区別はない。
過去形は、不定形語幹 (§ 022) に次表の語尾をつける。

[表 25]

	дѣлать	писáть	говорíть	жить
	する	書く	話す	住む
男性	дѣлал	писáл	говорíл	жил
女性	дѣлала	писáла	говорíла	жилá
中性	дѣлало	писáло	говорíло	жíло
複数	дѣлали	писáли	говорíли	жíли

Рáньше тѣтя жилá в Москвѣ. 以前叔母は、モスクワに住んでいた。
Вчерá я дѣлал доклáд. きのうち私は、報告をおこなっていた。

注 1) 主語が я, ты のとき、語尾に男女の区別が生じる。

Пѣтя, что ты дѣлал вчерá? ペーチャ、君はきのう何をしたの。
Я слúшал рáдио. ぼくは、ラジオを聞いていたよ。

Аня, что ты дѣлала вчерá? アーニャ、あなたはきのう何をしたの。
Я слúшала рáдио. わたしは、ラジオを聞いていました。

注 2) 主語 вы は、複数形で受ける。

Что вы дѣлали сего́дня? あなたは、今日何をしていたのですか。

注 3) кто は он と、что は онó と同じに扱う。

Кто пришёл? 誰が来たのですか。

Что было там вчерá? きのはそこに何があったのですか。

§ 037 動詞 быть の用法

быть には存在(～が在る)とつなぎ(～である)の意味がある。現在形では主語の人称と数に係わりなく есть が使われる。

Здесь есть буфѣт. ここにはビュッフェがある。

Зако́н есть зако́н. 法律は法律だ。

быть の過去形と未来形は、次の通りである。

[表 26 の 1]

男性	был	не́ был
女性	была́	не́ была́
中性	было́	не́ было́
複数	были́	не́ были́

[表 26 の 2]

я	бу́ду
ты	бу́дешь
он	бу́дет
мы	бу́дем
вы	бу́дете
они́	бу́дут

過去と未来形では、居場所を表わす表現で 2 通りの翻訳が可能である。

Вчерá Та́ня была́ в инститúте.

昨日ターニャは大学にいた。(存在)

昨日ターニャは大学に行って来た。(往復の運動)

§ 038 動詞の未来形

合成未来形は、「быть の未来形 + 不完了体動詞の不定形」で表現される。

[表 27]

я	бúду	дéлать
ты	бúдешь	дéлать
он	бúдет	дéлать
мы	бúдем	дéлать
вы	бúдете	дéлать
онí	бúдут	дéлать

Что вы бúдете дéлать зáвтра? 明日あなたは何をする予定ですか。
Зáвтра я бúду рáботать. 明日私は、仕事をするつもりです。

§ 039 特殊な変化をする動詞 (3)

идти́, нести́, вести́, везти́ (§ 034) の過去形は、次の通りである。

[表 28]	идти́	нести́	вести́	везти́
男性	шёл	нёс	вёл	вёз
女性	шла	несла́	вела́	везла́
中性	шло	несло́	вело́	везло́
複数	шли	несли́	вели́	везли́

Тогда шёл дождь. そのとき雨が降っていた。
Онí сначала шли пешко́м. 彼らは最初は徒歩でいった。

мочь (できる)、хотéть (欲する) の変化形は、次の通りである。

[表 29 の 1] мочьとхотéтьの現在形 [表 29 の 2] мочьの過去形

	мочь	хотéть
я	могú	хочú
ты	можешь	хóчешь
он	может	хóчет
мы	можем	хотíм
вы	можете	хотíte
онí	могут	хотя́т

男性	мог
女性	могла́
中性	могло́
複数	могли́

хотéтьはその後に名詞か動詞の不定形を、またмочь は動詞の不定形をとることができる。

Я хочú жить в Москвé. 私はモスクワに住みたい。
Вы можете éхать на метрó. あなたは地下鉄で行けますよ。

§ 040 簡単な複文

「～と思う・言う」などの構文では、接続詞 что を使って 2 つの文をつなぐことが多い。

Я дúмаю, что éто вáжное дéло.

私は、それは大切なことだと思います。

Мы зна́ем, что Сахали́н – большо́й о́стров.

私たちは、サハリンが大きな島であることを知っている。

§ 041 数詞 (4)

- 20. два́дцать
- 30. три́дцать
- 40. со́рок
- 50. пятьдеся́т
- 60. шестьдеся́т
- 70. се́мьдесят
- 80. во́семьдесят
- 90. девяно́сто
- 100. сто

第9課 (Урок девятый)

名詞の生格 (単数)

§ 042 名詞の生格 (単数)

生格は、所有や所属を示す「～の」の意味をもち、通常直前の名詞を修飾する格である。

変化は次表の通りである。

[表 30 の 1]		硬子音字	-й	-ь
男	主 格	сто́л	музе́й	слова́рь
性	生 格	стола́	музе́я	слова́ря

[表 30 の 2]		-а	-я	-ь
女	主 格	газе́та	семе́ья	пло́щадь
性	生 格	газе́ты	семе́й	пло́щади

[表 30 の 3]		-о	-е	-мя
中	主 格	окно́	мо́ре	и́мя
性	生 格	окна́	мо́ря	и́мени

На фотогра́фии ма́ть Воло́ди. 写真にヴォロージャの母親がいる。
Кре́мль – це́нтр Москвы́. クレムリンはモスクワの中心だ。

§ 043 人称代名詞および кто, что の生格

[表 31 の 1] 人称代名詞の生格

主 格	я	ты	он	она́	оно́	мы	вы	они́
生 格	меня́	тебя́	его́	её	его́	нас	вас	их

注 1) 3 人称の代名詞が前置詞結合を作るときは、語頭に н- の綴りを加える。たとえば его́ > у него́, её > у неё, их > у них となる。

注 2) 人称代名詞の生格には所有の意味はない。生格をとる動詞や前置詞の補語になるケースが多い。

[表 31 の 2] кто, что の生格

主 格	кто	что
生 格	кого́	чего́

§ 044 所有の表現

「A は B を持っている」は、「y + A (生格) + есть + B (主格)」の構文で表わす。

У ма́мы есть де́ньги.

ママはお金をもっている。

У меня́ есть слова́рь.

私は辞書を持っている。

この表現の過去と未来は、主格の名詞に語尾をあわせて用いる。

У него́ был брат.

彼には弟がいた。

У неё была́ хоро́шая ру́чка.

彼女はいいペンを持っていた。

У меня́ бу́дет гость.

私のところに来客があります。

§ 045 存在や所有の否定表現

「ない」「持っていない」は、現在時制では述語 нет で表わす。

「ない」もの、「持っていない」ものは、主格ではなく、生格で表わす。これを「否定生格」と呼ぶ。

– У вас есть биле́т?

あなたは切符をもっていますか。

– Нет, у меня́ нет биле́та.

いいえ、私に切符はありません。

нет の過去は не было、未来は не будетを使う。

Сегодня нет концерта.	今日はコンサートがない。
Вчера не было концерта.	昨日はコンサートがなかった。
Завтра не будет концерта.	明日はコンサートがないだろう。

《曜日の名称》		
月曜日	понеде́льник	в понеде́льник
火曜日	вторни́к	во вторни́к
水曜日	среда́	в сре́ду
木曜日	четве́рг	в четве́рг
金曜日	пя́тница	в пя́тницу
土曜日	суббо́та	в суббо́ту
日曜日	воскре́сенье	в воскресе́нье

§ 046 男性名詞活動体の対格（単数）

これまでの例文では事物を対格にしていたが、男性名詞には活動体名詞と不活動体名詞の区別がある。活動体名詞とは、人間や動物を意味する名詞をいう。そして不活動体名詞は、事物をさす。

活動体名詞の対格は、生格と同形である。

Я видел Анто́на. 私はアントンを見かけた。

Вы чита́ли Че́хова? あなたは、チェーホフを読んだことがありますか。

§ 047 生格支配の前置詞

名詞などの生格を補語にとる前置詞がある。標準的な語例を挙げてみよう。

без	～なしで	от	～から
для	～のために	с	～から
до	～まで	у	～のそばに
из	～から	около	～の周圍に

注) 一般に、前置詞 *c* は *на* に、*из* は *в* に対応し、*от* は *до* に対応する。

第10課 (Урок десятый)

名詞の与格 (単数)

§048 名詞の与格 (単数)

与格は、他動詞の間接補語「～に」の意味をもつ格である。

[表 32 の 1]		硬子音	-й	-ь
男 性	主 格	брат	музей	словарь
	与 格	брату	музею	словарю

[表 32 の 2]		-а	-я	-ь
女 性	主 格	сестра́	семья́	пло́щадь
	与 格	сестре́	семье́	пло́щади

注) 語末が -ия で終わる名詞では、与格を -ии と綴る。

Росси́я > Росси́и, ста́нция > ста́нции

[表 32 の 3]		-о	-е	-мя
中 性	主 格	окно́	мо́ре	и́мя
	与 格	окну́	мо́рю	и́мени

Па́па покупа́ет Макси́му кни́гу, а Ни́не журна́л.

パパはマキシムに本を、ニーナには雑誌を買おうとしている。

動詞には、与格の補語をとるものがある。

У́тром я помога́л ба́бушке гото́вить обе́д.

午前中ぼくは、祖母が食事のしたくをするのを手伝っていた。

Я не хочу́ вам меша́ть. 私は、あなたのじゃまをしたくありません。

§049 人称代名詞および кто, что の与格

[表 33 の 1] 人称代名詞の与格

主格	я	ты	он	она́	оно́	мы	вы	они́
与格	мне	тебе́	ему́	ей	ему́	нам	вам	им

注) 3 人称の代名詞が前置詞結合を作るときは、語頭に н- の綴りをつけ加える。たとえば ему́ > к нему́, ей > к ней, им > к ним となる。

[表 33 の 2] кто, что の与格

主格	кто	что
与格	кому́	чему́

Вам помо́чь? あなたに手を貸しましょうか。

Кому́ вы хоте́те помо́чь? あなたは誰を助けようとしているのですか。

§050 前置詞 к, по と与格

前置詞 к は、方向や関係などの意味を表わし、与格の補語と結合する。

Ма́ма веде́т Ка́тю к врачу́. ママはカーチャを医者の方に連れていく。

У него́ есть спосо́бности к языку́. 彼にはことばの才能がある。

前置詞 по は、範囲や内容、手段、配分などを表わし、与格補語をとる。

По́едем на экску́рсию по Москве́. モスクワ見物にでかけよう。

Оле́г звони́т по телефо́ну. オレーグは電話をかけている。

§051 無人称文

ロシア語には、主格の主語をもたない文型が3種類ある。すなわち、「無人称文」、「不定人称文」 (§061)、「普遍人称文」 (§111)である。

無人称文は、次のような語を述語とする文である。

a) 「暑い、寒い、早い、遅い」などを表わし、-о で終わる形容詞短語尾形は、述語として機能する。 (§063)

Здесь жарко. ここは暑い。 Сегодня холодно. きょうは寒い。
Ещё рано. まだ早い。 Уже поздно. もう遅い。

b) можно, нельзя, надо, пора などの述語は、動詞の不定形を伴う。

До Большого театра можно доехать на метро.
ボリショイ劇場までは地下鉄でいくことができる。
Теперь пора спать. Спокойной ночи!
さあ寝る時間だよ。おやすみ。

無人称文の過去形には было、未来形には будетを使う。

На вёчере было весело. Партыは楽しかった。
Можно открыть окно? Тебе не будет холодно?
窓を開けてもいい。君は寒くならないかい。

無人称文で意味上の主語は、与格で表わすことができる。

Мне плохо. 私は気分がすぐれない。
Вам нужно достать хороший словарь.
あなたはよい辞書を手に入れる必要がある。

§052 特殊な変化をする動詞 (4)

名詞などから派生し、語尾に-оватьをもつ動詞がある。現在形は、語幹 -ова- を -y- に変える第1変化型の動詞である。

рисовать (描く)で例示すると以下になる。

[表 35 の 1] 現在形

я	рисую
ты	рисуешь
он	рисует
мы	рисуем
вы	рисуете
они	рисуют

[表 35 の 2] 過去形

男性	рисовал
女性	рисовала
中性	рисовало
複数	рисовали

§053 数詞 (5)

100.	сто
200.	двести
300.	триста
400.	четы́реста
500.	пятьсо́т
600.	шестьсо́т
700.	семьсо́т
800.	восемьсо́т
900.	девятьсо́т
1000.	ты́сяча